宇美町立歴史民俗資料館

9　宇美の歴史

宇美町には、日本でいちばん古い古代山城の大野城跡（国特別史跡）、糟屋郡でいちばん大きな前方後円墳の光正寺古墳（国史跡）、安産祈願の参拝客で賑わう宇美八幡宮など、全国的に有名な文化財がたくさんあります。

わたしたちの住んでいる郷土に目を向け、宇美町のよさをたくさん見つけましょう。

宇美町周辺から出土した石の道具

旧石器時代の台形石器

旧石器時代の細石刃核（石の道具）

縄文時代の石匙

縄文時代の石鏃（やじり）

（1）旧石器・縄文時代の宇美

旧石器時代の遺跡は、宇美小校区の宇美公園や浦尻遺跡で、黒曜石などで作った石槍や台形石器、ナイフ形石器が発見されています。これらの石器は、今から約１～２万年前の人々が動物の狩りをするときに使用していたものです。

縄文時代のものでは、浦尻遺跡や光正寺遺跡で、石鏃（やじり）や石匙（ナイフ）が発見されています。また、宇美小学校裏門近くの上角遺跡で、今から約３千年前の土器が出土しています。

１万年より前は、一般に氷河時代ともいいます。氷河時代は、現在より気温が低く、海の水が干上がり、九州から対馬までは、歩いて行くことができました。この時代に大陸や朝鮮半島から、わたしたちの祖先が渡ってきました。

石包丁（いしぼうちょう）

石戈（せっか）

石剣

石斧（いしおの）

紡錘車（ぼうすいしゃ）

紡錘車を使って
糸をつむぐ人

（2）弥生時代の宇美

石包丁の一部には、飯塚市の立岩遺跡で作られたものがあります。斧の中には、福岡市今宿の今山遺跡で作られたものがあります。この時代には、石包丁や石斧を作る工場のようなものがありました。

①弥生時代の集落

井野小校区の川原田・供田遺跡群や宇美小校区の上角遺跡では、住居跡や高床式の建物跡、井戸などが発掘され、弥生時代の集落の様子を知ることができます。さらに、遺跡からは土器の他に、石剣、石戈、磨製石鏃などの武器や紡錘車、石斧、石包丁などの約２千年前の工具が出土しています。

武器は集落間の争いに用いられ、工具は機織や農耕などの生産活動に用いられていたと考えられます。

弥生時代の丹塗りの土器

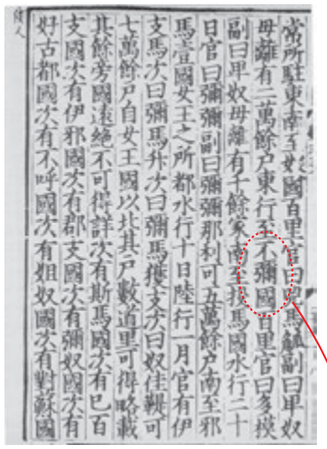
②水田が広がる宇美

川原田・供田遺跡群では、住居の床や集落を囲む大溝から、石包丁が出土しています。石包丁は、稲の穂を摘み取る時に使われた道具です。また、大溝からは、お祈りに使った丹塗りの土器や日常生活で使用した土器がたくさん出土しています。この土器の表面やそこには、籾の跡が残っているものがあり、大溝の外側では、米作りが行われていたことが分かります。

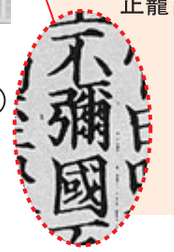
日本最古の水田は、福岡市博多区の板付遺跡や粕屋町の江辻遺跡にあります。

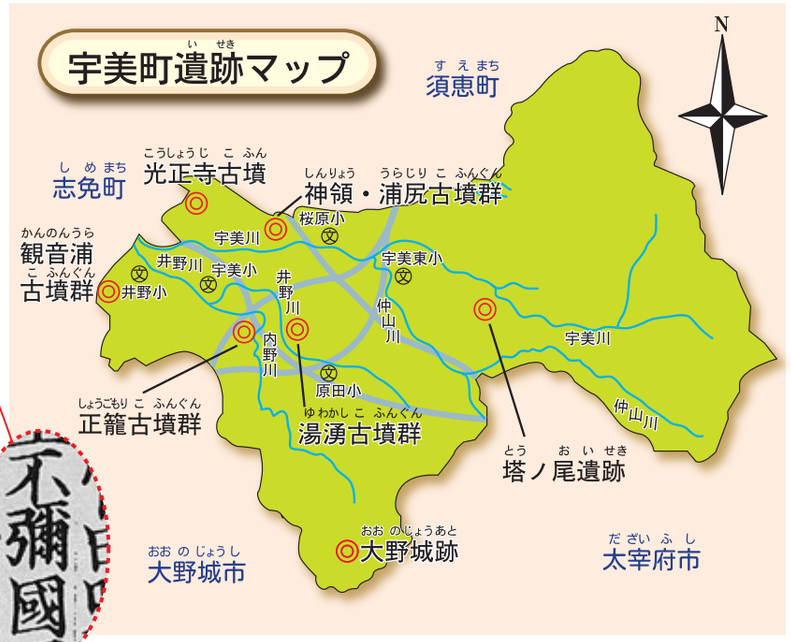
弥生時代は、前期・中期・後期の３つに時代区分されています。宇美町では、中期から後期の遺跡が確認されています。

丹塗り
土器を焼いた後、赤い顔料を塗ったものです。



魏志倭人伝
（宮内庁書陵部蔵紹熙本）



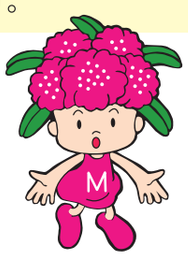


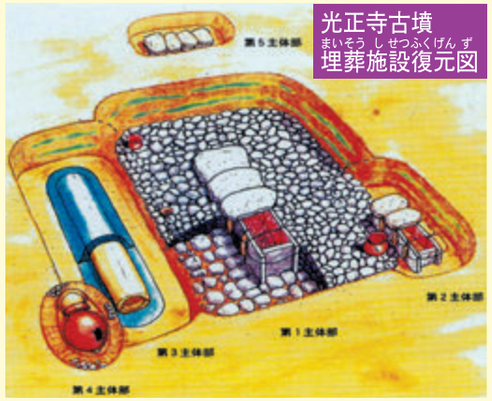
③邪馬台国と宇美（弥生～古墳時代）

今から約１８００年前、日本は小さな国（今の郡の範囲）が各地にありました。そのうちの３０か国あまりの国が、中国の古い書物「魏志倭人伝」に紹介されています。それらの国を治めていたのが「邪馬台国」で、その女王が「卑弥呼」です。「魏志倭人伝」には、邪馬台国に行く行程が記され、その中に「不彌国」という名前が記されています。この不彌国の場所が宇美町を中心とした糟屋地域一帯ではないかといわれています。

中国の歴史書で三国志（魏書・呉書・蜀書）のうち、「魏書・東夷伝・倭人条」を一般に「魏志倭人伝」といっています。約2千文字で、倭国（日本のこと）が紹介されています。

江戸時代から、不彌国は糟屋地域一帯にあるといわれてきました。
光正寺古墳の発掘調査以降、その説を支持する人が増えています。





光正寺古墳出土土器

勾玉

管玉

（３）前方後円墳がつくられた宇美

①光正寺古墳は不彌国王の墓？

糟屋郡内には、現在、７基の前方後円墳があります。そのうち、３基が宇美町にあり、中でも、３世紀後半につくられた最古級の前方後円墳が、粕屋町の戸原王塚古墳と宇美町の光正寺古墳です。この二つの古墳がつくられた年代は、魏志倭人伝に記されている邪馬台国があった時代と同時期で、光正寺古墳が糟屋地区最大の古墳であることから、不彌国王の墓ではないかと考えられています。

前方後円墳は、古墳時代の各時期ごとに、その地域内でつくられた古墳のうち、数％しかありません。このため、前方後円墳は、地域の権力者の墓と考えられ、他の古墳と区別されています。

観音浦古墳群
石室全景

観音浦古墳群出土
装身具

観音浦古墳群・岩長浦窯跡

②磐井の乱と宇美

磐井は、筑紫君といって、北九州から火国（現在の熊本）、豊国（現在の大分）にかけての広い地域を支配していた豪族です。

4世紀から7世紀中ごろにかけて、奈良県南部の大和地方の豪族が大王のもとで連合し、各地の豪族をしたがえて生まれた政権を大和政権といいます。

屯倉

食料をためておく倉庫で、その土地全体のことを意味しています。食料を管理するために、役人や見張り役がいて、役所のような役目をしていました。

今の福岡県八女市で大きな勢力を持っていた筑紫の君磐井は、527年に大和朝廷と戦をしました（磐井の乱）。戦に敗れた磐井は殺され、その子の葛子は、大和朝廷に糟屋屯倉を献上し、罪を逃れたと「日本書紀」に記されています。この糟屋屯倉が私たちの住む糟屋郡にあったと考えられています。その後、宇美や志免の丘陵に古墳がたくさんつくられるようになりました。その古墳群の一つが、井野小校区のひばりが丘にあった観音浦古墳群です。

トンボ形鞘金具（観音浦古墳群）

単鳳環式柄頭（湯湧古墳群）

金銅製の馬具（正籠3号墳）

装身具（正籠3号墳）

③有力者がいた宇美（古墳時代後期）

古墳時代後期には、観音浦古墳群をはじめ、宇美小校区の正籠古墳群、原田小校区の湯湧古墳群など、町内各地域に群集墳がつくられます。その中の観音浦古墳群からは「三累環式柄頭」や「トンボ形鞘金具」、湯湧古墳群では「単鳳環式柄頭」、正籠3号墳からは「素環頭大刀」などの装飾大刀が、金銅製の馬具や装身具とともに出土しています。装飾大刀は、当時の有力者が、権力の象徴として所有していたと考えられています。

正籠3号墳は、宇美町で最後につくられた前方後円墳です。

トンボ形鞘金具は、観音浦南19号墳から出土しました。これは、国内に類例がなく、とても珍しいもので、宇美町指定文化財です。

この時代、今の宇美中学校校内及び周辺では、若杉山周辺でとれる滑石を材料に、玉などの装身具をつくる工場があり、正籠3号墳などの副葬品として納められていたようです。

大刀と太刀

考古学では、奈良時代以前に作られた刀を「大刀」、奈良時代以降に作られた刀を「太刀」と表記します。

大野城跡増長天礎石群

大野城跡百間石垣

（写真・図九州歴史資料館提供）

大野城跡城門礎石

（４）朝鮮との交流が深かった宇美（飛鳥・奈良時代）

６６０年に百済王は捕らえられ、百済は滅亡しました。６６３年に軍を送ったのは、百済復興のためでした。

①日本最古の山城「大野城」が築かれた宇美

660 年、朝鮮半島にあった百済は、中国を統一した唐と新羅の連合軍に攻められ、日本の大和朝廷に助けを求めました。

663年、中大兄皇子（天智天皇）は、２万の大軍を送りましたが、朝鮮半島西側中部にある白村江の戦いで、唐・新羅連合軍に敗れました。そこで、大和朝廷は、大宰府などを守るため、朝鮮式山城「大野城」を築きました。

太宰府と大宰府

現在の地名は「太宰府」、歴史的地名は「大宰府」が使われています。

大野城跡のイメージ図
（九州産業大学芸術学部
三枝孝司研究室　帯田夢夏 画）

古代日本の
西の都
～東アジアとの交流拠点～

大野城跡の土塁

②憶礼福留と四比福夫と宇美

大和朝廷は、大宰府を守るため、665年に、大宰府背後の山に「大野城」と、南の基山に「基肄城」を築造しました。

築造には、百済から亡命してきた貴族の憶礼福留と四比福夫に命じて築城させたことが「日本書紀」に記されています。

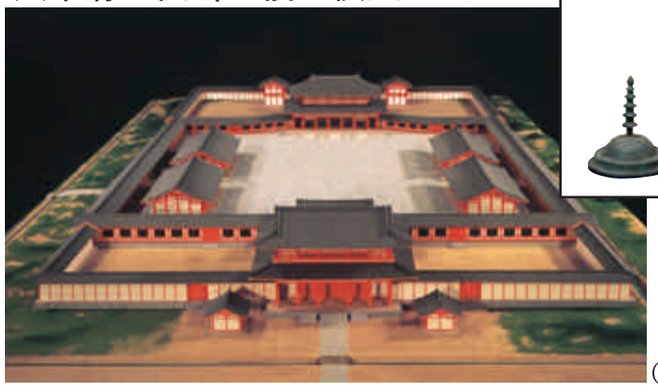
原田小校区の寺浦地区では、大野城の建物に使用されたと考えられる瓦を焼いた窯跡が発見されています。

大野城は、山全体を総延長約８ｋｍにもなる長大な土塁で囲んだ城です。

九州・中国地方には、朝鮮式山城の他に神籠石系山城が多数築城されています。

大野城は日本最古の古代山城で、日本遺産「古代日本の『西の都』～東アジアとの交流拠点～」の構成文化財になっています。

大宰府の役所の復元模型



四王寺から出土した
経筒（宇美八幡宮蔵）

（写真 / 九州歴史資料館提供）

③大野城に四天王寺を創建
（奈良時代 8 世紀）

大野城が築かれてから100年ほどたったころ、新羅がよからぬことを祈っているというううわさが伝わり、774年に、国の平和や安全を祈るため、大野城内に四天王寺が創建されました。その後、大野城は、城と祈りの場としても機能するようになりました。

平安時代の終わりごろ、末法思想（お釈迦さまの教えが滅びるという考え）が広まると、四王寺山にも盛んに経塚がつくられるようになりました。

この経塚から出土した経筒は、現在、国の重要文化財に指定されています。

経塚と経筒

経塚はお経を地面に埋めている場所で、経筒はお経を入れておく筒のことです。

応神天皇誕生の石碑

子安の石

国の天然記念物の大樟

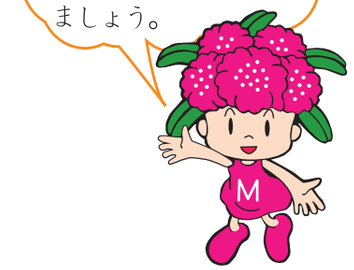
宇美八幡宮境内古図
（江戸時代製作：宇美八幡宮蔵）

④宇美八幡宮の由来

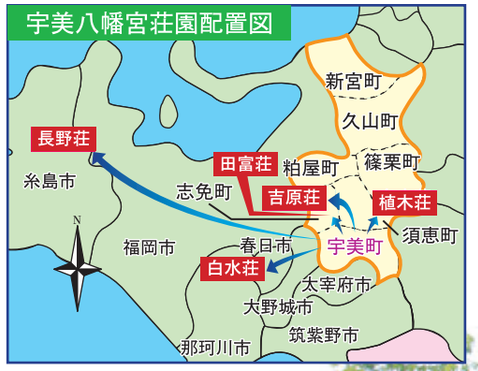
宇美八幡宮は、神功皇后が応神天皇をご出産されたという伝説に由来する安産信仰で有名な八幡宮です。

このことは、奈良時代の古事記（712年）や日本書紀（720年）に記録が残っています。

安産信仰の歴史も古く、平安時代頃から、安産のお参りに関する記録が残っています。



古事記は、現存する日本最古の歴史書で、稗田阿礼が暗誦していた神話や伝承を太安万呂が聞き取って記録したものです。



宇美八幡宮

宇美八幡宮は京都の石清水八幡宮と関係が深かったんだよ。

荘園というのは8～16世紀にかけて、藤原氏をはじめとする貴族や大社・寺が各地にもうけた私有地のことです。

（5）宇美八幡宮と荘園（平安時代）

宇美町には、「彼岸田」や「位田」など平安時代の荘園に由来する地名が残っています。

宇美八幡宮が持っていた荘園は、宇美町のほかに、須恵町の「植木荘」、志免町の「田富荘」「吉原荘」、春日市の「白水荘」、糸島市の「長野荘」の６カ所です。

このことから、宇美八幡宮が強い力を持っていたことが分かります。

福岡市の筥崎八幡宮

蒙古襲来絵詞（竹崎季長奮闘の図：筥崎宮蔵）

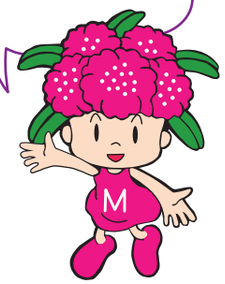
伝 極楽寺跡
（筥崎八幡宮奉還の地）

（6）元軍が攻めてきた時の宇美（鎌倉時代13世紀）

1274年、元という大帝国が中国・朝鮮を征服して、4万の大軍で日本に攻めてくる元寇という大事件が起こりました。博多の浜は、おびただしい軍勢であふれあちこちに火の手が上がり、筥崎八幡宮のお宮もあやうくなりました。

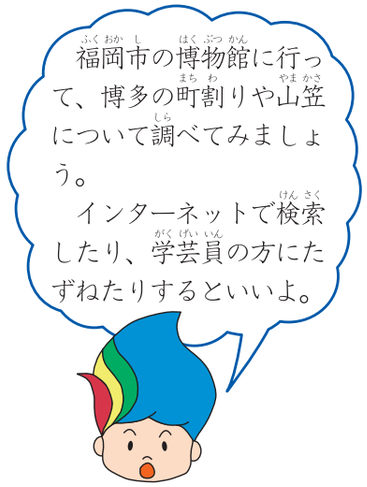
筥崎宮の神官たちは、御神体を朱塗りの唐櫃にかついで宇美八幡宮まで避難してきたのですが、みんな逃げていたので、三郡山の麓の障子岳の極楽寺に一時避難しました。

元寇について、図書室などで調べてみましょう。



御神体とは、神様をあらわす神聖な物のことで、古来より鏡・剣・玉・鉾などが用いられてきたんだよ。

井野山：唐山城跡



（7）中世山城が築かれた宇美
（室町・戦国時代14～15世紀）

現在、宇美町には中世山城が3か所見つかっています。井野山の唐山城跡、頭巾山の頭巾山城跡、砥石山の鬼杉城跡です。

井野山の唐山城跡は、古文書に記録が残っており、築城については、筥崎宮の勢力や宇美八幡宮大宮司だった神武氏が関わっていたと考えられています。

四王寺山：岩屋城跡

四王寺山：岩屋城本丸跡

（8）天下統一と高橋紹運
（安土・桃山時代16世紀）

全国統一をめざす豊臣秀吉の軍勢と九州統一をめざす鹿児島の島津氏の軍勢の決戦が行われました。

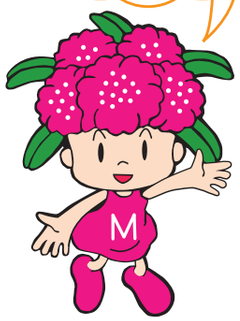
当時、四王寺山の岩屋城に城をかまえていた高橋紹運以下763名は、島津軍５万の大軍を相手に13日間戦い、全員が岩屋城で戦死しました（1586年）。

この翌年、秀吉の軍が九州を統一し、全国統一の足がかりとなりました。

黒田長政画像
長政は 32 歳のときに福岡藩主となりました。
この画像は長政が一の谷の兜をかぶり、秀吉から贈られた白熊の采配を手にしているところです。
（福岡市博物館提供）

（9）江戸時代の宇美

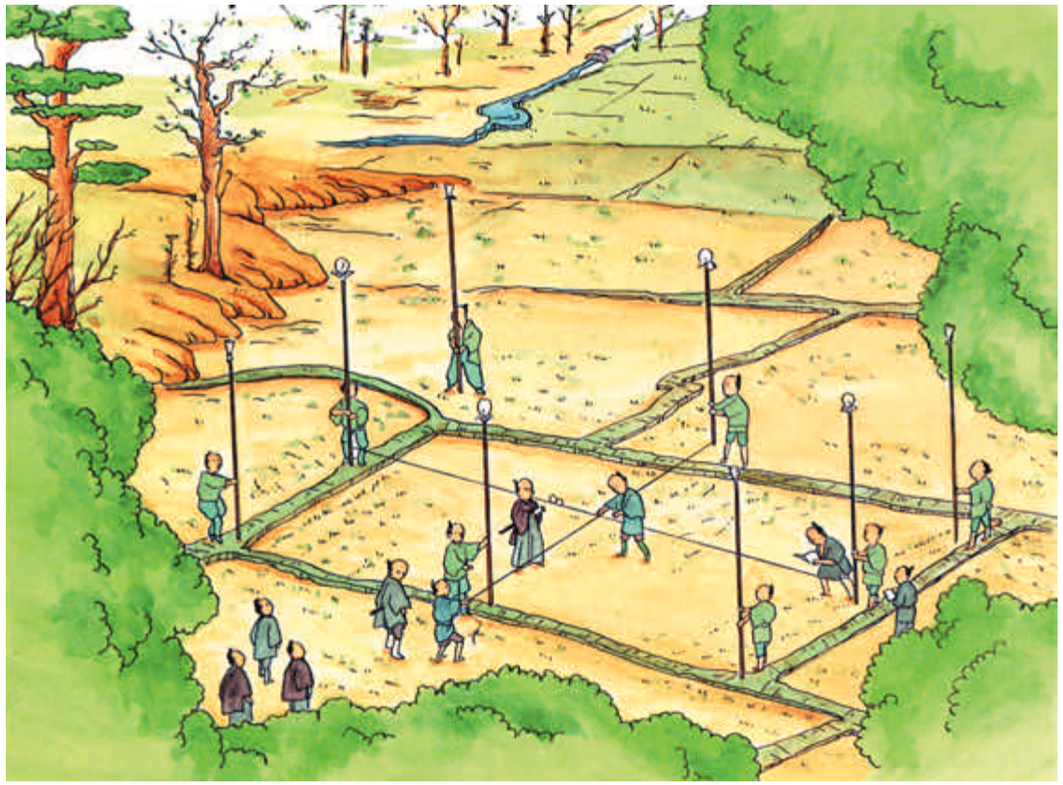
260年間続いた江戸時代の徳川氏や黒田氏について調べてみましょう。また、幕府が出した「慶安のおふれ書き」と農民の生活について考えてみましょう。



①福岡藩の大名と農民（17 世紀）

1600年、福岡藩主として黒田氏が入国しました。その後、徳川家康は江戸に幕府を開きました。

初代の福岡藩主、黒田長政は、香椎にあった名島城の石垣などを使って、福岡城をつくらせました。



検地の図（「徳川幕府県治要略より」）

②検地と宇美（17 世紀）

黒田長政は、1602年、100人以上の武士を村々に派遣して検地をし、田畑の持ち主・広さ・取れ高を調査しました。

糟屋郡の検地は、2年かかって完成しています。

6尺5寸の一間真四角で一歩、300歩を一反とし、米をはかる枡を京枡にそろえました。

農民から年貢を取り立てるため、田畑の面積や収穫高を調べることを検地と言うのよ。
全国的に厳しく行われたのは太閤検地が初めてで、江戸幕府に引き継がれたんだって。

薬師堂がある疫神社

井野本村の宝永地蔵

③井野本村の宝永地蔵

井野本村に薬師堂があります。森の中の苔むした石段の中ほどの右側に古びた地蔵菩薩の石仏が建っています。その石仏の左下に「宝永七年」(1714年）の文字が読み取れます。宇美町の石仏の中で年号が分かる最古の石仏です。

これは、1710年（宝永３年）に、筑前地方は大洪水で田畑が流され、年貢を納めなくてもよいとされるほどの被害者が出たことを供養して建てられたのです。

宇美の道標・石碑・石仏などの場所やいわれについて調べてみましょう。

お家の人と一緒に調べてみよう。

皿山陶器所之図筑前国風土記付録

宇美町障子岳採集の須恵焼

④障子岳の須恵焼窯（18世紀）

須恵焼は、江戸時代半ば頃、進藤安平が石炭掘りの穴の中で焼き物の土に使える白土（陶土）を発見し、福岡藩から許可をもらって始めた焼き窯です。この須恵焼は、皿山焼とも言われ、約１５０年間続きました。

宇美町障子岳でも須恵焼が見つかっており、明治以降に焼かれたと考えられています。

この須恵焼は、須恵町立歴史民俗資料館にたくさん展示してあるよ。

昔の酒づくり絵図

清酒「萬代」（小林酒造本店提供）

⑤宇美村の作五郎（18世紀）

小林酒造初代当主の小林作五郎は1792年（寛政４年）、酒屋を開業しました。その３年後の24歳のとき、福岡藩から、となり村の田富村の庄屋を務めるようにと言われました。その後、災害救助準備金を寄附したり糟屋郡の農政整理に協力したりして、村人を愛し、特にほかから移住した「入百姓」に世話の限りをつくしたことで黒田の殿様からほうびをもらいました。

12番　千手観音坐像

30番　千手観音立像

26番　千手観音立像

⑥四王寺三十三体石仏

四王寺には三十三体の石仏があります。これは、当時、福岡で災害や疫病がたくさん発生していたことを鎮めるため、博多、宇美、太宰府の人々が力を合わせて、つくったものです。

今でもお参りする人がたくさんいます。

馬場自治会、小林家の庭に残る「ふたまたせばし」標石

昭和48年水害でも宇美町は大きな被害を受けました。これは、その被害から立ち上がった記念碑です。

（内野谷）

⑦橋の架け換え工事に尽くした小林酒造初代小林作五郎(19世紀)

1828年（文政11年）6月からの大洪水、8月の大雨や大風で、博多に行く時に通る大事な二又瀬橋やほかの土橋も流されてしまいました。

流されるたびに、作五郎は自分のお金を出して、橋を修理したり架け換えたりしました。

宇美村はもちろん、志免村の人々は博多まで安心して行き来できるようになり、大変助かりました。

図書室に行って、交通の発達の歴史について調べてみましょう。

本を探す3つのポイント

- 目録で探す。
- インターネットで探す。
- 分類表をもとに探す。

原田付近の測量想像図

伊能忠敬の画像

量程車

測食定分儀

象限儀(中)

写真・画像：
千葉県香取市　伊能忠敬記念館所蔵

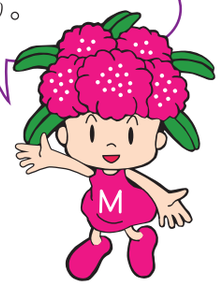
⑧伊能忠敬測量隊の宇美測量(19世紀)

正確な日本地図を最初に完成させた伊能忠敬測量隊は、宇美村にも実際に来て、歩いて調べています。

1812年9月27日、太宰府を出発した一行5名、三条から只越峠、そして宇美に入りました。只越峠から原田、原田橋（土橋）を渡り、宇美八幡宮までが1里33町あったと記録しています。

途中、宇美八幡宮にあった誕生寺でお昼の休憩をしています。

伊能忠敬について、図書室などで調べてみましょう。



1里33町は今の道のりで約7.5kmだそうです。

1町は約109m、1里は約3,927mです。

七卿都落ち

太宰府に着いた時は、５名の公家でしたから「五卿都落ち」とも言われています。（太宰府天満宮蔵）

(10) 明治維新と宇美

①七卿都落ちと太宰府

1853年（嘉永６年）、ペリーが黒船４隻で日本に来てから、日本中が鎖国か 開国かで意見が分かれて幕府を倒そうと考える武士や公家などが多くなりました。

幕府は、反対する公家たちを取り締まりました。このため、三条実美ら７名は京都から太宰府に逃れてきました。これを「七卿都落ち」といいます。

明治時代の小林酒造

竹亭跡付近にある三条実美などが詠んだ和歌が彫られた石碑

通称「萬代山」の竹林にあった「竹亭」

②三条実美と宇美（１８６５年）

宇美川のそばの竹林の中に、宇美の大庄屋で小林酒造三代目当主の小林虎太によって建てられた茶室「竹亭」がありました。

三条実美は、馬で太宰府から宇美の「竹亭」に来て、和歌をよんでいます。

また、ここで「早見川」という酒をともにくみかわし、虎太は「早見川」をおりこんだ今様をうたい、幕府を倒す話をしていたと考えられます。新しい時代の幕開けです。

今様とは、平安中期に起こり鎌倉時代にかけて流行した新しい歌謡。当時の「現代流行歌」という意味の名前でした。

宇美八幡宮境内図

③明治維新と神仏分離令（１８６８年）

１868年（明治元年）王政復古のかけ声とともに明治新政府は、神仏分離の政策をとりました。これにより、全国で仏像が壊される運動が起こりました。

太宰府天満宮にあった仁王門や仁王様は壊され、伊能忠敬測量隊が休憩した宇美八幡宮の誕生寺も壊されました。この時、誕生寺にあった仏像は新原村に運ばれ、今も地蔵堂で祀られています。

王政復古とは、朝廷が発表した宣言のことです。
摂政・関白と江戸幕府の廃止、総裁・議定・参与の三職の設置などが決められたそうだよ。

鉄筋校舎になる前の宇美小学校（昭和25年：児童数1,166人）

宇美八幡宮境内の宇美小学校玄関前
卒業写真（明治32年：児童数205人）

現在の場所の宇美小学校
（明治38年：児童数357人）

昔の宇美小学校運動会
（大正14年：児童数659人）

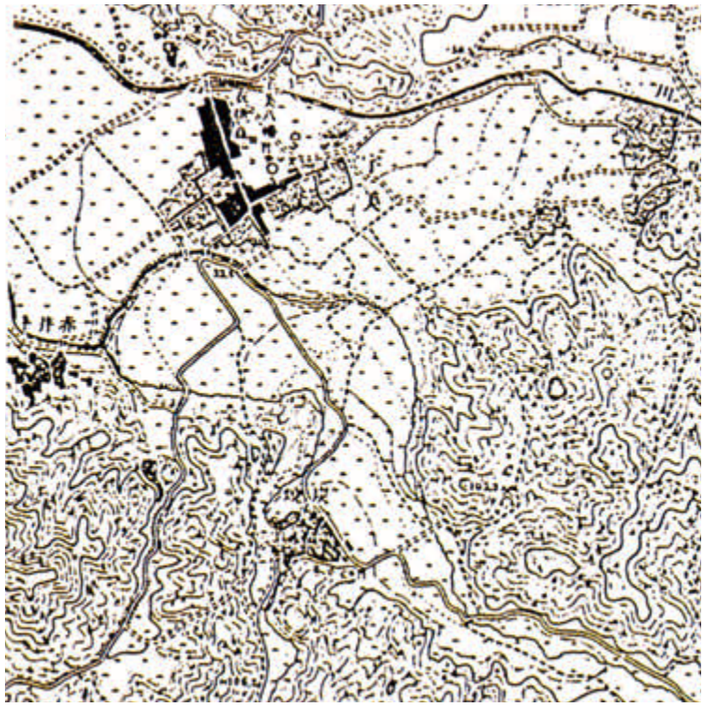
④宇美小学校ができる（１８７２年）

明治新政府は，1872 年（明治５年）、全国に学校をつくるようにしました。

宇美町では、1873 年（明治６年）４月１８日に民家を借りて、授業が行われました。これが、宇美小学校の始まりです。1874 年（明治７年）には児童８７人と１人の先生、明治８年には、児童 196 人と３人の先生、になったと言われています。やがて、1876 年（明治９年）に宇美八幡宮の境内に初めて校舎が建てられました。

昔の学校のようすと今の学校のようすとの違いなどについてお年寄りの方に聞いて調べてみましょう。

昔は、習字と読み方、算術、作文の４教科だったのね。



明治33年当時の宇美中心部

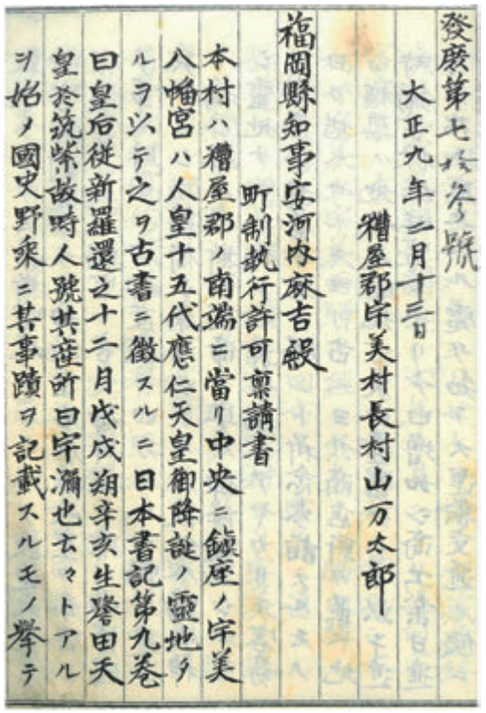
⑤新しい宇美村誕生（１８８９年）

1875年（明治８年）、障子岳村が宇美村と合併し、四王寺村、井野村、炭焼村、宇美村の４か村になりました。

その後，1889年（明治22年）、一つの村になることが決まり、新しい宇美村が誕生しました。

宇美村庁舎は宇美八幡宮のそばに建てられました。それまで村議会などの話し合いは、宇美小学校で行われていました。

昔の宇美町役場庁舎



町制施行稟請書

⑥宇美町誕生（１９２０年）

1920年（大正９年）10月20日に、石炭産業によって発展し、人口が増えたため宇美村から宇美町になりました。

宇美町は、糟屋郡内で最初に町になりました。同年10月26日には、宇美八幡宮で、国の大臣や福岡県知事を招いて、町制施行祝賀会が開催されました。

昭和25年当時の宇美町

(11) 昭和のころの宇美町

①石炭でうるおった宇美町の様子

三菱勝田炭鉱　大運動会（昭和13年）

原田小学校は今の場所と変わっていません。割烹着を着たご婦人たちが準備運動をしています。

千日座映画館（昭和30年代）

現在のＪＲ宇美駅前、上宇美商店街にありました。昭和40年頃に閉館しました。

吉ノ浦炭鉱の山の神の祭り（昭和30年代）

現在の原田小学校区、福博鎌倉区の様子です。

道路の様子【宮前通り】（昭和 30 年代）

宇美八幡宮前の道の様子です。車や家の様子が現在とは違います。路線バスも走っていました。

宇美駅の様子

石炭で栄えた宇美町には、香椎線と勝田線がありました。昭和30年代頃に石炭産業は衰え、石炭を運んだ勝田線は、昭和60年に廃線となりました。

宇美町は、昭和３０年代頃まで石炭産業を中心に栄えていたんだね。

炭鉱の様子は、「石炭でにぎわった宇美町」（９５ページ）に詳しく書いているよ。

②受け継がれる伝統文化

宇美八幡宮の放生会

昭和30年代

現在

宇美神楽

昭和30年代

現在

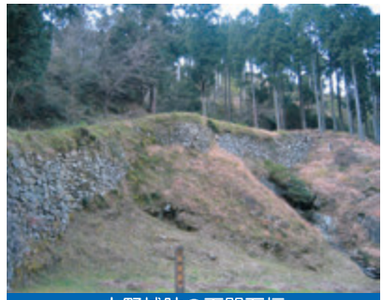
宇美町では、貴重な伝統文化が町の人々によって今も大切に受け継がれています。

宇美八幡宮秋の大祭である放生会は、毎年10月に行われ、生き物に感謝の気持ちを捧げるお祭りとして行われており、町内外を問わず多くの参拝者が訪れ、賑わっています。

また、毎年４月の子安大祭と10月15日の放生会の時に宇美八幡宮神楽殿で行われている宇美神楽は、昭和48年に福岡県の無形民俗文化財（芸能）の指定を受けており、福岡県内でも重要な文化財です。

宇美町の歴史年表（れきしねんぴょう）

時代	西暦	日本・宇美町のおもなできごと
旧石器	紀元前２万年	宇美で狩猟活動が始まる（神領・浦尻遺跡）
		戸原遺跡（粕屋町）
縄文	後　期	宇美で縄文人が活動し始める（上角遺跡）
弥生	紀元前３百年	農耕が始まる（福岡市 板付遺跡・粕屋町 江辻遺跡）
		北部九州地方に甕棺が盛んになる
	５７年	奴国王、漢の光武帝より金印を受ける
		青銅器、鉄器製作が盛んになる
		宇美川流域に弥生時代の集落がつくられ始める 川原田・供田遺跡 上角遺跡 表田・世利口遺跡
		 川原田・供田遺跡の竪穴住居跡
		吉野ヶ里遺跡（佐賀県）
		卑弥呼、邪馬台国女王となる
		 光正寺古墳
		平塚川添遺跡（甘木市）
	２４８年	卑弥呼、没す 壱与、邪馬台国女王となる
古墳	200年代後半	光正寺古墳が築造される （糟屋郡内最大の前方後円墳）

古墳	３６２年	応神天皇、宇美の地で生まれる （古事記・日本書紀による）
		 神領古墳出土の内行花文鏡
		七夕池古墳、神領・浦尻古墳群が築造される
	５２７年	磐井の反乱
	５２８年	磐井の子、葛子が糟屋屯倉を朝廷に献上
		正籠古墳群３号墳が築造される（前方後円墳）
		観音浦古墳群が築造される
		湯湧古墳群が築造される
		ウソフキ古墳群が築造される
		宇美中学校遺跡 （古墳時代の集落遺跡）
		 観音浦古墳群/蜻蛉形鞘金具
飛鳥	６４５年	乙巳の変（大化の改新）
	６６３年	白村江の戦いで、日本軍が唐・新羅連合軍に敗れる
	６６４年	水城築造
	６６５年	大野城築造、基肄城築造
	７０９年	観世音寺建立
奈良	７１０年	平城京へ遷都
	７１２年	「古事記」できる
	７２０年	「日本書紀」できる
		塔ノ尾遺跡の火葬墓が築造される
	７７４年	大野城に四天王寺を建立
		 大野城跡の百間石垣

宇　美　の　歴　史

平安	794年	平安京へ遷都
	901年	菅原道真、太宰府へ流される
		四王寺山に経塚が盛んに造られる
	1141年	**近衛天皇の安産祈願（今鏡）**
鎌倉	1185年	鎌倉幕府成立
	1205年	**宇美八幡宮、石清水八幡宮の社領となる**
	1274年	元軍、博多に上陸（文永の役）
		筥崎宮、御神体を宇美の極楽寺に移す（八幡愚童訓）
	1281年	元軍、博多に迫る（弘安の役）
	1333年	鎌倉幕府滅亡
南北朝	1336年	多々良浜の戦い 室町幕府成立
室町	1392年	足利義満　南北朝合一
	1467年	応仁の乱
		塔ノ尾遺跡土壙墓が作られる
	1551年	筑前守護代杉興運、高取居城をでる
	1568年	**筥崎宮座主　麟清、井野山の賀良山城に登城（豊前覚書）**
	1571年	立花道雪、立花城主となる
	1573年	室町幕府滅亡
安土・桃山	1574年	**宇美八幡宮大宮司神武氏 井野山に唐山城を築城(筑前町村書上帳)**
	1578年	**宇美の武士　矢野氏・神武氏立花道雪勢と障子岳で戦う（豊前覚書）**
	1586年	岩屋城の戦い　高橋紹運戦死
	1586年	豊臣秀吉九州出兵　高取居城（岳城）落城
	1600年	関ヶ原の戦い　黒田長政、筑前に入る

宇美八幡宮

表田・世利口遺跡出土の中国産陶磁器

正楽遺跡

八反田遺跡
表田・世利口遺跡
上角遺跡
正楽遺跡
上角遺跡
一滴遺跡
頭巾山城（頭巾山）、鬼杉城（砥石山）築城

江戸	1603年	江戸幕府成立
	1706年	**宇美八幡宮に聖母宮を建て神功皇后像を安置する**
	1710年	筑前続風土記（貝原益軒著）
	1792年	**小林酒造開業**
	1800年	**四王寺山に三十三体石仏がつくられる**
	1812年	**伊能忠敬測量隊　宇美を測量**
	1863年	文久の政変により、三条実美らが長州へ逃れる（七卿都落ち）
	1866～1867年	**三条実美ら宇美へ来訪**
明治	1868年	明治維新
	1872年	**宇美小学校完成**
	1873年	筑前竹槍一揆
	1886年	**宇美八幡宮社殿造営**
	1889年	**宇美村・炭焼村・四王寺村・井野村が合併し宇美村となる**
	1905年	**博多湾鉄道開通（後の香椎線）**
大正	1919年	**筑前参宮鉄道開通（後の勝田線）**
	1920年	**宇美村から宇美町になる**
昭和	1938年	**三菱勝田鉱業所創立**
	1940年	**四王寺出土の経筒が重要文化財指定**
	1941年	太平洋戦争始まる（12月）
	1942年	**博多湾鉄道と参宮鉄道など5社が合併し、西鉄が誕生する**
	1944年	**博多湾鉄道と参宮鉄道を国鉄が買収**
	1945年	太平洋戦争終わる（8月）
	1963年	**三菱勝田鉱業所閉山**
	1985年	勝田線廃線（3月）
平成	2000年	**宇美町町制施行80周年**
令和	2020年	**宇美町町制施行100周年**

昭和初期頃の博多湾鉄道（香椎線）